

NEXCO東日本グループ 中期経営計画 (2011～2013年度)

～「つなぐ」価値を創造～

2011年10月

あなたに、ベスト・ウェイ。



目 次



I. グループ経営理念	1
II. グループ経営ビジョン	2
III. グループ経営方針	3
IV. グループCSR方針	4
V. 中期経営計画	
1. はじめに	5
2. 位置づけ	6
3. 基本方針	7
4. 財務計数計画	10
5. 事業別的主要計画	12
6. 事業別計画	13
7. コーポレート部門の計画	38
参考1:NEXCO東日本グループ会社一覧	47
参考2:東日本大震災への対応	48

I. グループ経営理念



NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



II. グループ経営ビジョン



NEXCO東日本グループは、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長します。



「つなぐ」
価値を創造する
5つのCONNECT

CONfidence 信頼と安全・安心空間の追求
Neo traffic industry company 世界へ飛躍する交通サービス企業への進化
Environment 循環型社会・低炭素社会の実現へ貢献
Community & excitement 地域社会を豊かにする魅力ある空間を創出
Teamwork & technology 人と技術が活きるグループ力の向上



III. グループ経営方針

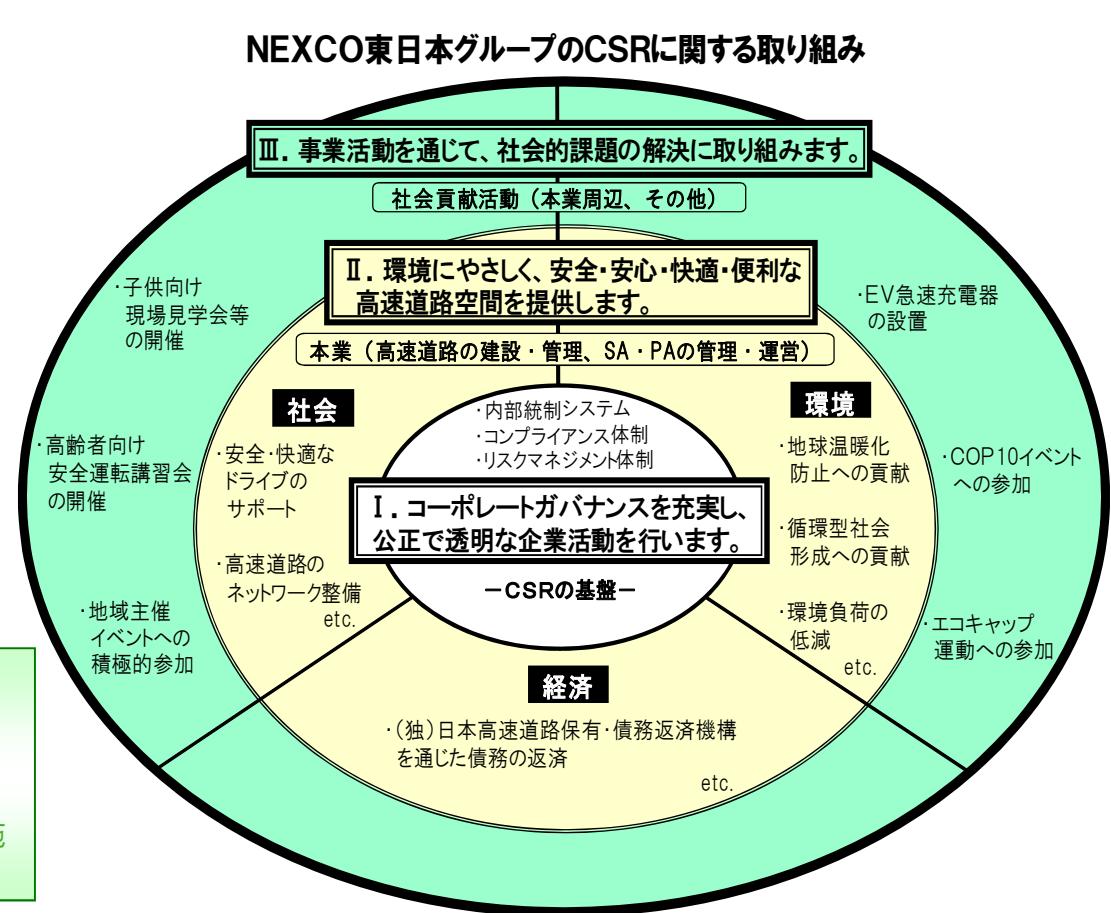
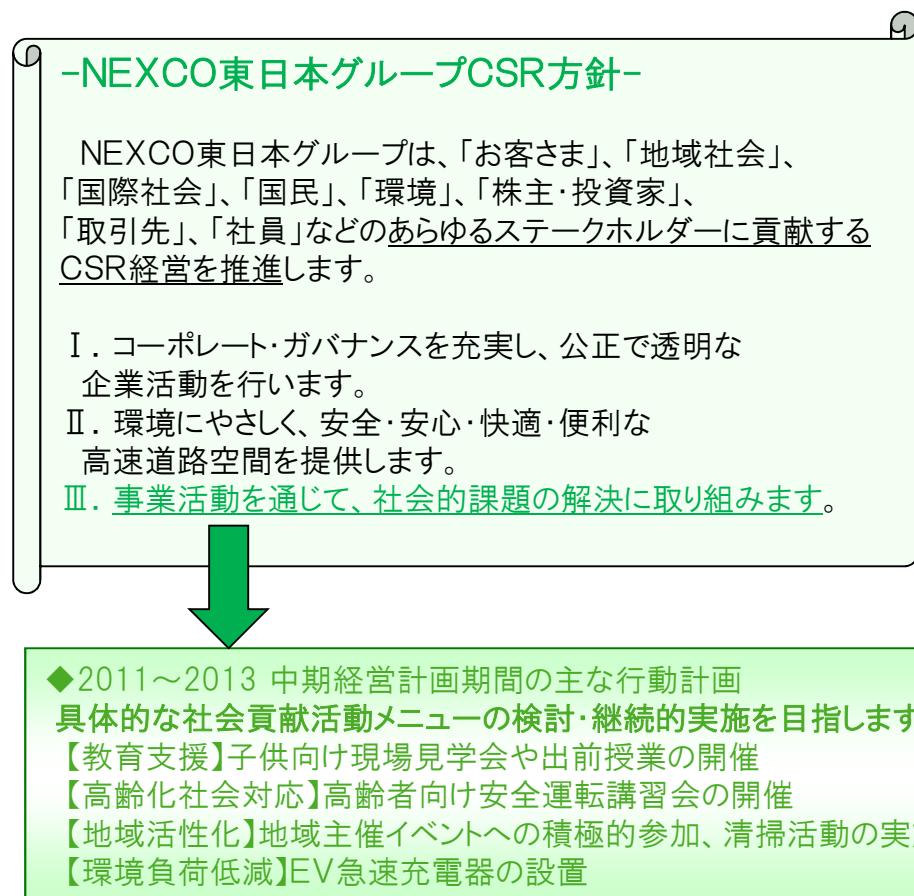


- お客様を第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、技術とノウハウを発揮して社会に貢献するとともに、的確な企業情報の発信を行います。
- 終わりなき効率化を追求するとともに、経営資源を最適に活用することにより、お客様サービスと企業価値を向上させ、健全な経営を行います。
- 社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。
- 「お客様」、「地域社会」、「国際社会」、「国民」、「環境」、「株主・投資家」、「取引先」、「社員」などのあらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します。

IV. グループCSR方針



グループ経営方針に基づき、NEXCO東日本グループは以下の方針によりCSRに関する取組みを進めてまいります。



V-1. 中期経営計画ーはじめに



- NEXCO東日本グループは、2006～2010年度を経営基盤を確立する期間と位置づけ、『中期経営計画(2006～2010年度)』に取り組んでまいりました。1日約270万台(2010年度実績)のお客さまに安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供し、国の施策である休日特別割引(地方部上限1000円料金)、無料化社会実験等に適切に対応する中で、約2.4兆円の道路資産賃借料を支払い、確実に債務を返済しました。道路建設では北関東自動車道(約150km)の全線開通をはじめ24区間258kmの新規開通等を行なうとともに、建設コストの大幅削減にも取り組みました。SAPAでは独自ブランドPasarをはじめとする専門店、コンビニの積極的な導入などにより収益力を確実に確保してきました。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災では、グループ一体となり緊急交通路の確保、被災を受けた高速道路の早期復旧等を行ない、被災地域の復旧・復興に尽力してまいりました。
- 『中期経営計画(2011～2013年度)』は、今後3年間を「経営基盤の強化を図り、経営の安定、さらなる発展を目指す期間」と位置づけ、

Return on Management = Vision × Change × Governance × Operation

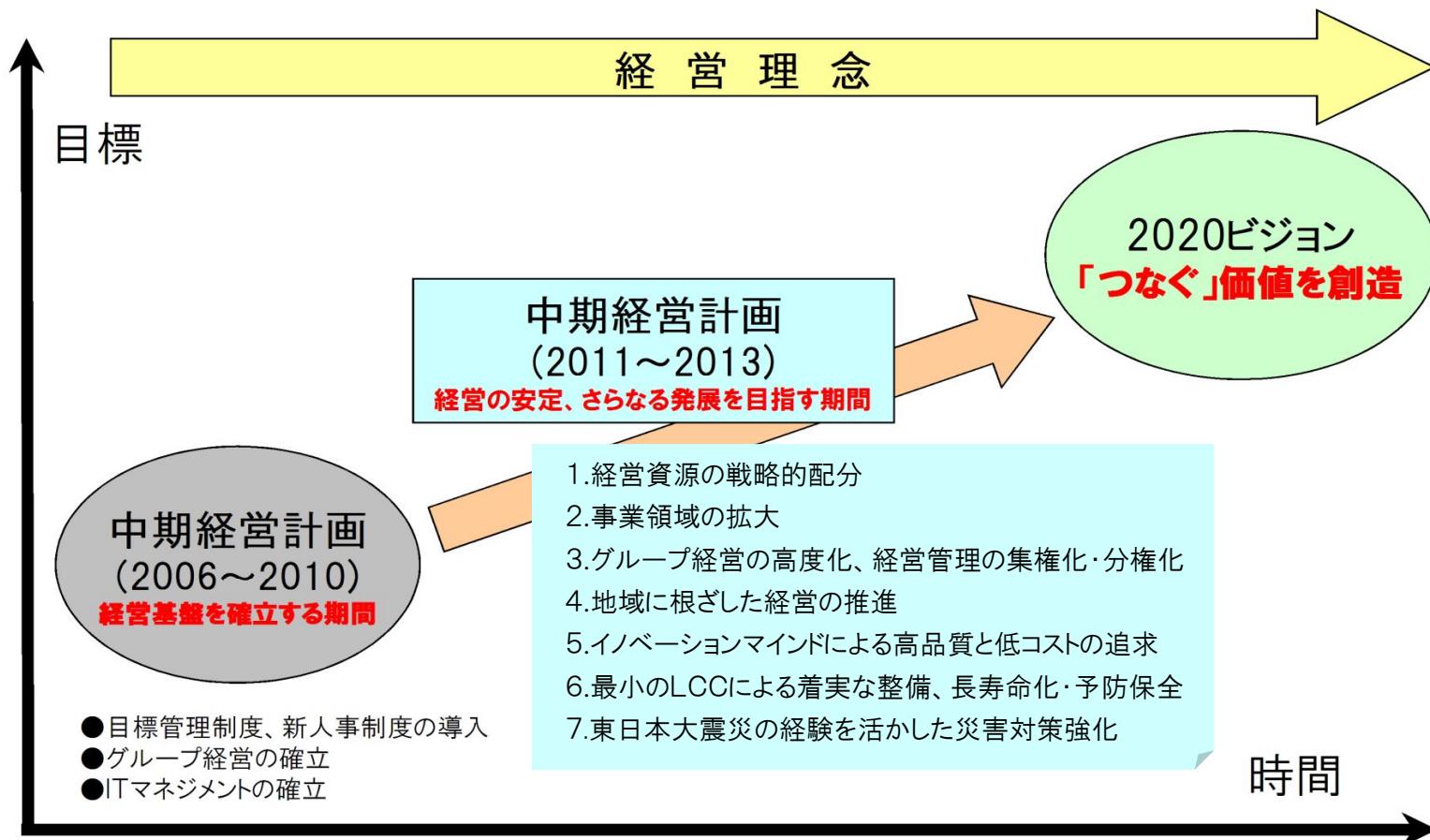
を最大化する観点から策定しました。「つなぐ」価値の創造という2020ビジョンを達成するため、グループ全体の経営資源の戦略的配分、事業領域の拡大にチエンジの精神で取り組むとともに、経営管理の集権化・分権化によりグループ経営の高度化、地域に根ざした経営を推進するガバナンスを目指します。また、オペレーションでは技術革新を中心とし、イノベーションマインドをもって高品質と低コストを追求し、最小のLCCによる高速道路の着実な整備、効率的な長寿命化・予防保全を推進します。さらに今回の東日本大震災の経験を活かし、広域的な大災害を想定した防災対策・減災対策を強化します。引き続き、安全・安心・快適・便利な高速道路空間をお客さまに提供することで、高速道路の効果を最大限発揮させ、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献する企業として成長していきます。



V-2. 中期経営計画－位置づけ



- 前期の「中期経営計画(2006～2010年度)」では、NEXCO東日本グループの経営基盤を確立しました。
- 本期の「中期経営計画(2011～2013年度)」は、「つなぐ」価値の創造に向け、経営基盤の強化を図り、経営の安定、さらなる発展を目指す期間と位置づけます。



V-3. 中期経営計画－基本方針



NEXCO東日本グループは、2011年度から2013年度までを『経営基盤の強化を図り、経営の安定、さらなる発展を目指す期間』と位置づけ、以下の取組みを確実に実施します。

【Change (変革)】

基本方針1:経営資源の戦略的配分

持続可能な発展・成長を目指し、イノベーションによる事業の高度化・効率化を図るとともに、成長分野を選択し、経営資源を戦略的に配分します。

- 老朽化が進行する高速道路資産の健全化と長寿命化を追求…P15
- 地域社会発展に向けたミッショングリンクの整備等を推進(新規開通延長:160km)…P24
- SA・PAをよりエキサイティングにする積極的な設備投資を実施…P31
- 連結ベースのグループ実行計画によるマネジメントサイクルを確立…P43
- 経営管理力や現場力の開発・強化につながる人材を確保・育成…P45

基本方針2:事業領域の拡大

収益源の多様化を図るため、事業領域の拡大に向けた基盤整備を行ないます。

- 高速道路技術を活用したビジネスを展開…P30
- 新たな事業の可能性を追求するための調査・検討を推進…P35
- 活躍の場の拡大と収益事業としての海外事業を展開…P36

V-3. 中期経営計画－基本方針



【Governance (統治)】

基本方針3: グループ経営の高度化、経営管理の集権化・分権化

グループ企業価値の最大化を目指し、グループ経営の高度化、経営管理の集権化・分権化を図ります。

- 24時間365日グループ一丸となり不断の道路管理を行い、現場力を一層向上…P22
- 各部署の業績目標を評価する業績評価システムを導入…P43
- 組織体制を見直し(本社本部制の導入等)…P44
- グループ会社の事業領域(所掌地域、事業内容等)を見直し…P44

基本方針4: 地域に根ざした経営の推進

地域経済の活性化と地域社会の発展、新しい価値の共創に寄与するため、支社を中心に地域の視点に立った、地域に根ざした経営を推進します。

- 冬期においても交通を確保、地域の基本的インフラとして地域の生活を守る…P21
- 高速道路を通じた地域社会との連携…P25
- 追加インターチェンジやSA・PAの整備を推進…P27
- SA・PAでは地域や心との「つながり」を意識した細やかな施策を展開…P33
- 地域に根ざした支社単位の業務執行体制を構築…P44

V-3. 中期経営計画－基本方針



【Operation (執行)】

基本方針5:イノベーションマインドによる高品質と低コストの追求

あらゆる事業領域において、イノベーションマインドをもって技術開発、環境保全、人材育成、現場力向上、調達の最適化に取り組み、グループ全体の総合力を高め、高品質と低コストの両立を追求します。

- 冬期交通の安全性向上や対面通行区間の抜本的な交通事故対策を実施…P16
- 付加車線の設置や各種渋滞対策、情報提供設備の高機能化を推進…P17
- 利便・快適性の向上のためにSA・PAを改築、多様な企画割引を提供…P19
- スキル・能力を高める人材育成を強化し、自らさまざまなイノベーションに挑戦…P23
- 将来を見据えた高速走行空間を創造…P26

基本方針6:最小のLCCによる着実な整備、長寿命化・予防保全

最小のLCCで最良の高速道路ネットワークを提供するため、着実なネットワーク整備、効率的な長寿命化・予防保全を推進します。

- 最先端の点検技術による予防的な補修計画・実施・評価を確実にマネジメント…P15
- ライフサイクルコストを考え、耐久性向上を目指した高速道路を建設…P28
- 効率的な長寿命化・予防保全に向けた技術基盤を整備…P39

基本方針7:東日本大震災の経験を活かした災害対策強化

巨大地震(広域的な大災害)を想定した二段構えの災害対策(防災対策・減災対策)を強化します。

- 災害対策強化3ヶ年プログラムを策定(SA・PAの防災拠点化等)…P20
- 自然災害に強く、信頼される高速道路を建設…P29

V-4. 中期経営計画－財務計数計画



○高速道路事業では、安全で安心できる高速道路空間の提供を目指し、高いサービス水準を確保していきます。また、高速道路の建設や災害復旧の修繕を着実に実施していきます。

○サービスエリア事業では、エリア改良による増収や収支改善策の徹底等により営業利益を確実に確保していくとともに、店舗売上高1,500億円(2010年度実績:1,357億円)を目指し、段階的に投資金額を引き上げていきます。

損益計画(連結)

(税抜)

事業	科目	2011年度(H23年度)	2012年度(H24年度)	2013年度(H25年度)
高速道路事業 （道路管理事業 道路建設事業）	営業収益	料金収入 道路資産完成高 その他の営業収益 営業収益計	5, 308億円 2, 599億円 124億円 8, 032億円	6, 083億円 2, 311億円 70億円 8, 464億円
	営業費用	道路資産賃借料 道路資産完成原価 その他の営業費用 営業費用計	3, 605億円 2, 511億円 1, 921億円 8, 038億円	4, 134億円 2, 233億円 2, 092億円 8, 459億円
	営業利益	▲5億円	5億円	9億円
関連事業 （サービスエリア事業 海外事業 他）	営業収益	597億円	666億円	540億円
	営業費用	565億円	633億円	505億円
	営業利益	32億円	33億円	35億円
全事業計	営業利益	26億円	38億円	44億円

V-4. 中期経営計画－財務計数計画



B/S計画(連結)

(税抜)

	2011年度(H23年度)	2012年度(H24年度)	2013年度(H25年度)
資産の部	7, 209億円	8, 403億円	10, 504億円
負債の部	5, 591億円	6, 736億円	8, 810億円
純資産の部	1, 618億円	1, 667億円	1, 694億円

投資計画(連結)

(税抜)

	2011年度(H23年度)	2012年度(H24年度)	2013年度(H25年度)	累計
機構資産	2, 024億円	3, 243億円	2, 679億円	7, 946億円
会社資産	281億円	427億円	401億円	1, 108億円

※機構資産とは、完成後に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構へ引き渡すこととなる道路資産を構築するための投資のことを言います。

財務計数計画については、億円未満の端数を切り捨て表示しているため、合計が合わない場合があります。

V-5. 中期経営計画－事業別的主要計画



事業	内容	数值計画等			2013年度(H25年度)
		項目	2011年度(H23年度)	2012年度(H24年度)	
道路管理事業	お客さま満足度の向上	総合CS(5段階評価)	3.7	3.8	3.9
	老朽化対策	舗装修繕率	92.3%	96.5%	96.8%
		橋梁修繕率	88.7%	89.9%	90.8%
		施設保全率	87.1%	89.5%	90.2%
	渋滞対策	渋滞損失時間	667万台時間／年	666万台時間／年	663万台時間／年
	交通事故削減	死傷事故率	7.2件／億台キロ	7.2件／億台キロ	7.1件／億台キロ
	東日本大震災の復旧・復興	東日本大震災被災箇所の本復旧完了率	30%以上	100%	—
道路建設事業	安全な冬期交通の確保	冬期営業率	99.7%	99.7%	99.7%
	高速道路ネットワークの整備	新規開通延長	72km	88km	—
サービスエリア事業	SA・PAの収益増及びサービス向上	(主な取組み) ドラマチックエリアの展開 新世代型PAの展開	1箇所開業 整備計画策定	3箇所開業 2箇所展開	4箇所開業 4箇所展開
海外事業	活躍の場の拡大と収益事業の展開	(主な取組み) 海外事業の新規展開 コンサルティング業務の実施	海外新会社の設立 コンサル業務	事業参画検討 継続実施	継続実施



V-6. 中期経営計画・事業別の計画

道路管理事業の戦略

NEXCO

道路管理事業においては、グループ一体となって、“4本の柱”により「安全で円滑な交通を確保し、お客さまに満足していただける道路空間とサービスの提供」の使命を果たします。

安全・安心の柱

快適・便利の柱

社会貢献・地域連携の柱

現場力強化の柱

Confidence

Environment

Teamwork & technology

24時間365日、安全で安心できる高速道路空間を提供し、お客さまの信頼を得ることに努めます

お客さまのニーズや利用スタイルに応じた快適さと利便性を感じる質の高いサービスを追求します

環境保全への貢献、雪・地震の際には地域生活を支えるなど、高速道路の管理事業を通じ社会的使命と責任を果たします

高速道路のプロ集団として、グループ一丸となり不断の道路管理を行い、未来に向け、一層マネジメント力を高めます

今中期計画では、基盤・防災力の強化を重点戦略とします！

◆交通事故の削減

◆老朽化が進む道路資産の長期健全性の確保

◆料金関連サービスの展開

◆休憩施設の利便性向上

◆情報提供の多様化

◆定時性・確実性の確保

◆安全な冬期交通の確保

◆環境保全への貢献

◆巨大地震への対策強化

◆プロ集団としての不断の道路管理

◆組織力・人材力の強化

道路管理事業(その1)

安全・安心の柱

最先端の点検技術により予防的な補修計画・実施・評価までを確実にマネジメントし、老朽化が進行している道路資産の健全化と長寿命化を追求します！

■老朽化が進む道路資産の健全性を確保

社会の財産である道路資産を良好な状態に維持するとともに、道路資産の長期健全化を図り未来へ継承します。

○舗装補修：安全かつ乗り心地の良い道路路面を維持するため、管理基準に基づき劣化した路面を計画的に補修、更新を行います。
◆舗装修繕率 H22末 約89.5% ⇒ H25末 約96.8%

○橋梁補修：橋梁の耐力を低下させないように、経過年数や劣化状況、調査・点検結果等に基づき、塗替塗装や剥落対策等の補修を行います。
◆橋梁修繕率 H22末 約87.4% ⇒ H25末 約90.8%

○施設設備補修：道路照明や情報・通信設備などの施設設備を健全に機能維持及び機能向上させるために、経過年数や劣化状況、点検結果などを踏まえ、老朽化に対する補修、更新を進めます。
◆施設保全率 H22末 約85.9% ⇒ H25末 約90.2%



《舗装打ち替え》



《剥落補修》



《トンネル照明更新》

・健全性の確保には、正確に現状を把握する点検が重要であり、最新の技術により効率的かつ精度の高い調査・分析を行っております。

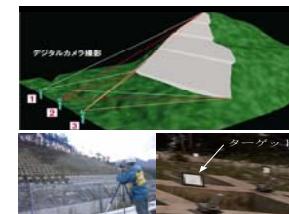
・この結果を基に、ライフサイクルコストの最小化を目指した補修計画を立案、計画的補修の実施、事後評価分析をサイクルとしたトータルマネジメントを実践します。

⇒これらにより、健全な道路資産を“次世代に確実につなぎます”

【点検技術の事例】



高速走行でレーザー光線を投射し、路面のわだち掘れを調査

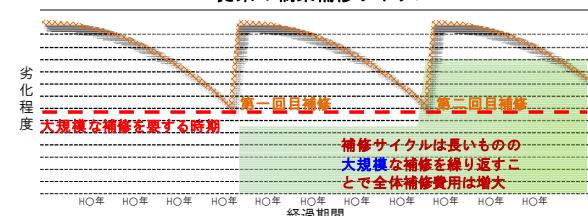


デジタルカメラで複数箇所から撮影し、画像をPCに取り込むことで、3次元のひびき面変位量を計測

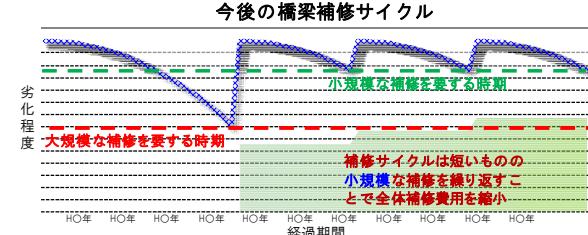
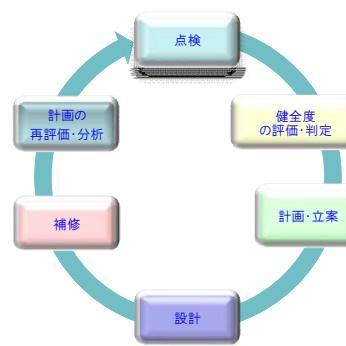


画像処理技術を応用した塗膜劣化度の調査

従来の橋梁補修サイクル



【トータルマネジメントサイクル】



道路管理事業(その2)

安全・安心の柱

冬期交通の安全性向上や対面通行区間の抜本的な交通事故対策を講じ、より安全な高速道路を目指します！

■対面通行区間や冬期交通の交通安全対策の推進

○対面通行区間において、付加車線設置や車線分離の改良に着手し、死傷事故を減らします。

《主な対策と計画箇所》

対策	計画箇所	延長	完成予定期
付加車線	磐越道(津川～三川)	約4.0km	平成28年度
車線分離化	秋田道	約10.0km	平成25年度
凹凸型路面表示工	対面区間及び事故多発区間	約500km	平成27年度

○自発光スノーポールや視線誘導の強化などの整備を進め、引き続き冬期交通や夜間走行の安全性確保に努めていきます。



《冬期走行支援としての自発光スノーポール》



《夜間事故対策の高視認性区画線》

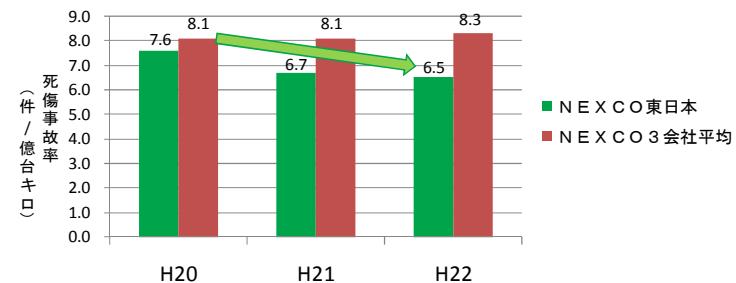
○現地に即した交通安全啓発活動と各種交通安全講習会等の開催、また並行して、全社的にマナーアップキャンペーンの展開・強化(「HEARTFUL HIGHWAY・マナーティ活用による広報」)を行っていきます。



《交通安全啓発活動(広報:マナーティポスターと安全運転講習会)》

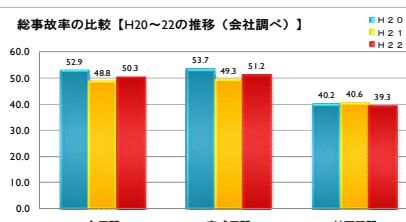
- ・NEXCO東日本における死傷事故率は全国高速道路の中で最小です。
- ・一般道を含む道路全体の死傷事故率の1/15 (H22:101件/億台キロ)
- ・近年の交通量の増加にも関わらず、当社の死傷事故率は減少傾向です。

《死傷事故率(件/億台キロ)の年度比較》

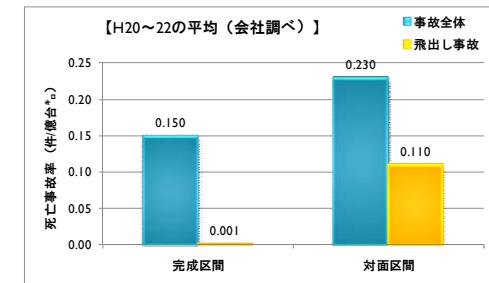


・一方、対面通行区間の総事故率は完成区間より低いものの、死亡事故率は高い傾向であり、対面通行区間の死亡事故の内、反対車線への飛び出しによる事故は約半数を占めます。

⇒より安全な道路を目指し、対面通行区間の交通安全対策を推進します。



《死亡事故率(飛出し事故)の比較》



道路管理事業(その3)

快適・便利の柱

渋滞の削減やネットワーク機能強化のため、付加車線の設置や各種渋滞対策、情報提供設備の高機能化を推進します！

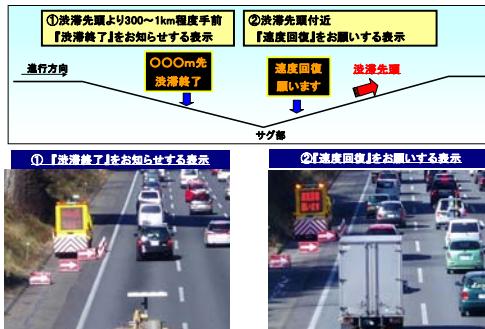
■渋滞の削減

○渋滞の発生状況や費用対効果等を考慮し、渋滞対策としての付加車線設置などを実施します。

『主な渋滞箇所とその対策』

道路名	区間	対策	延長	完成予定期
京葉道路	穴川IC～貝塚IC間(上)	付加車線設置	約0.9km	平成25年度
京葉道路	穴川IC～貝塚IC間(下)	付加車線設置	約2.0km	平成27年度
京葉道路	花輪IC(上)	加速車線延伸	約0.7km	平成23年度

○渋滞の発生しているサゲ及び上り坂などで、速度回復や車線利用率の平準化等を促す対策を実施し、渋滞の軽減を図ります。



『LED表示板を用いた速度回復情報提供』
(サゲ部等での渋滞緩和)



『渋滞予測情報の事前提供』
(ホーモージでの提供例)

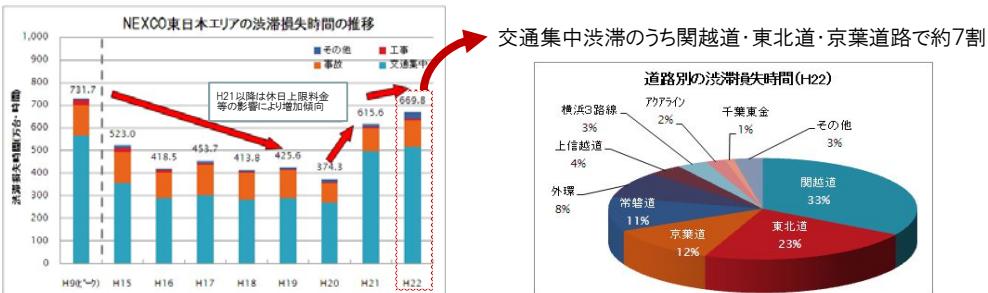
【渋滞削減の目標】

◆渋滞損失時間 H22末 6,678千台・時 ⇒ H25末 6,633千台・時

・渋滞損失時間は、H20にピーク時の5割程度に減少したが、H21より休日上限料金等の料金割引により増加傾向です。

・東日本管内では交通集中による渋滞損失時間が全体の約8割を占め、そのうち関越道・東北道・京葉道路が約7割を占めます。

⇒渋滞損失時間の大きい主要ボトルネック箇所から優先順位をつけ、付加車線等の整備を推進します。



京葉道路 穴川IC～貝塚IC間 付加車線設置イメージ



※当該区間においては、付加車線設置により渋滞損失時間(台・h)を50%以上削減することを目指します。

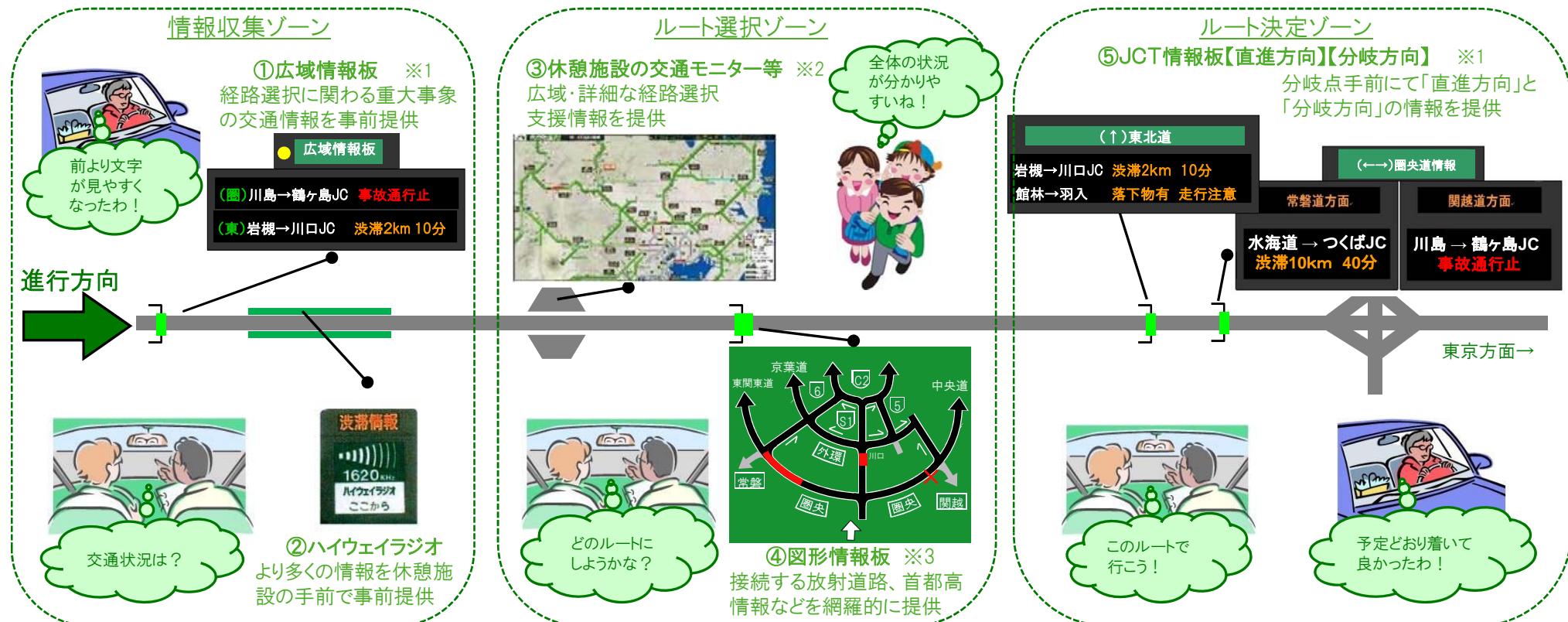
道路管理事業(その4)

快適・便利の柱

■交通情報提供の機能向上

環状道路等の供用に伴う道路のネットワーク化等に際し、道路交通情報・ルート選択支援情報として、広域情報板、図形情報板やハイウェイラジオ、休憩施設での交通モニター・お知らせモニターの拡充・更新を実施します。

○基本的な情報提供イメージ(首都圏へ向かうルート選択)



※1 情報板はマルチカラーを採用し、より“見やすい色”を表示します！

※2 休憩施設の交通モニター等はユニバーサルデザインの採用により、誰にでも“やさしい色”で表示します！

※3 ルート選択支援が必要な箇所に設置します。

道路管理事業(その5)

快適・便利の柱

多様化するニーズに応え、休憩施設の利便・快適性向上のための改築や多様な企画割引を提供します！

■トイレの快適性向上

ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが安心し快適に利用できる休憩施設を整備していきます。

○トイレ内は明るく、暖かさの感じられる内装(床・壁・トイレブースの色、間接照明など)の採用及び段差を解消します。



※節水型便器、節水型自動水栓を採用

○小さな男の子も利用可能な子供用小便器やおむつ替えができるベビーシートを備えた大型ブースを整備します。



○おむつ替え等が必要な大人の方が利用できるベッドや幼児が利用できる便座を整備します。



【休憩施設の顧客満足度の目標】

◆休憩施設の顧客満足度 H22末 3.8ポイント ⇒ H25末 3.9ポイント

■SA・PAの大規模改築

慢性的な混雑や段差等により使い勝手の悪いSA・PAを大規模リニューアルします。

○国見SA等のリニューアル(バリアフリー化)

老朽化や混雑対策と併せ、施設配置の見直しや段差を解消させ、利便性や快適性を向上させます。

«国見SAのリニューアルイメージ»



○施設高低差の解消対策

駐車場と休憩施設の間に高低差がある構造のSA, PAについては、エレベータなどを設置し、身障者や高齢者に対しやさしい施設にします。

■多様な企画割引の実施

地元の観光協会や観光施設等と連携して地域の観光シーズンなどに高速道路の料金がお得になる企画割引を展開します。

○ご利用促進、定着を図るため、地域との連携を図り、お客様ニーズを捉えた付加価値を提供いたします。



道路管理事業(その6)

社会貢献・地域連携の柱

東日本大震災の経験を生かし、災害対策強化3ヶ年プログラムを策定し、震災対応力の強化を図り、発災時には速やかに高速道路機能を発揮させ、救命救急や被災地の復旧・復興に貢献します！

■災害対策強化3ヶ年プログラムによる震災対応力の強化

災害対策強化3ヶ年プログラムの基本方針

1. 「防災対策」と「減災対策」の二段構えの耐災思想をより明確化した災害対策を推進します。
2. 東日本大震災の経験を踏まえ、巨大地震(広域的な大災害)に対する課題を集中的に克服します。
3. ITを活用した情報収集とICT※を活用した情報伝達路を強化し、災害時の意思決定の迅速化・的確化を図ります。
4. 社会的責任として、関係機関と緊密な連携体制を構築し、高速道路を活用した救命救急活動を支援します。
5. 災害や危機管理に迅速かつ的確に対応できる人材の育成を図ります。

※ICT:Information and Communications Technology

●救援救護エリア

- ・お客さまや地域住民の一次避難・救護エリアの確保
- ・水、食糧、トイレ、大型テント、炊き出しなど物資の支援
- ・災害ボランティアの進出拠点としての支援

●進出部隊支援エリア

- ・被災地に向かう自衛隊、消防隊など集結場所の確保
- ・備蓄や優先供給体制の確保による燃料供給体制の確立
- ・航空部隊との連携を可能とするヘリポートの整備

●情報支援エリア

- ・常時接続を可能とする通信網の確保(携帯、公衆無線LAN等)
- ・自家発電機による常時電源供給体制の整備
- ・情報モニターによる被災状況の提供
- ・広域交通情報の提供

○SA・PAの防災拠点化(プログラムの具体事例)

首都直下地震を想定し、全国から救援・救護に向かう支援部隊やボランティアのための拠点となる支援エリアを整備します。

SA・PAの防災拠点化のイメージ図



道路管理事業(その7)

社会貢献・地域連携の柱

冬期においてもしっかりと交通を確保することにより、地域の基本的インフラとしての機能を確保し、地域の生活を守ります！

■冬期交通を確保するための各種雪氷対策を推進

○地吹雪等による視界不良が頻発する区間では、視認性を確保するために、自発光スノーポールや防雪柵等の設置します。またトンネル坑口部付近への融雪装置等を設置し、安全性の向上に努めます。



《自発光スノーポールの設置例》



《防雪柵の設置例》



《TN坑口手前の状況》



《TN内への雪の引き込み状況》

《主な対策と計画箇所》

対策内容	主な対策箇所	整備延長
自発光スノーポール	道東道(十勝清水～芽室)他	約64km
防雪柵	降雪に伴う視程障害多発箇所	約3km
ロードヒーティング	上信越道(薬師山トンネル他)	11箇所
定置式融雪装置	長野道(一本松トンネル他)	3箇所

■効率的な雪氷作業の推進

○雪氷作業の迅速化を図るため、雪氷作業用Uターン路の整備や雪氷車両の待避所の整備を行います。

○新技術を積極的に開発・導入し、更なる雪氷作業の効率化を目指します。



《路面情報測定車》

路温計、气温計、塩分濃度計等の各種センサーを取付けた車両により巡回し、路面状況をリアルタイムにデータ収集する



《雪氷作業車GPS位置伝送》



《雪氷車両運行管理システム》
自営デジタル無線とGPSを活用することにより、車両位置リアルタイムに把握し、雪氷作業を迅速かつ効率的に作業指示を行うための支援システム

■冬道の情報提供、交通安全啓発活動の推進

○高速道路情報サイトで、リアルタイムの気象状況情報等の提供や各種イベントの開催、ポスター・チラシなどによる安全啓発活動を行うなど、積極的に冬期の交通安全に取り組みます。



《高速道路情報サイトでの情報提供》



《冬道の安全運転啓発活動》



道路管理事業(その8)

現場力強化の柱

24時間365日グループ一丸となり不断の道路管理を行い、高速道路のプロ集団として、現場力を一層高めていき、お客さまサービスの向上に努めます！

(株)ネクスコ・
トール東北

(株)ネクスコ・
トール関東

(株)ネクスコ・
トール北関東

(株)ネクスコ・
サポート
北海道

(株)ネクスコ
東日本
パトロール

(株)E-NEXCO
パトロール

料金所では、交通状況に応じて適切なレーン開放を行い、多種多様な車両の判別、各種料金割引、ETCのトラブル等に的確かつ迅速に対応し、日々お客さまが快適に高速道路をご利用いただけるよう努めています。



【料金収受】

安全で円滑な高速道路を確保するため、交通巡回の実施等により、異常事態の有無、道路状況、気象条件等の情報を収集し、お客さまに提供しています。また、異常事態が発生したときは現場へ急行し、落下物の排除、事故対応、故障車に対する支援等を行っています。



【保全点検】

高速道路の沿道を巡回し道路敷地内の不法投棄、立ち入り防止柵の状態等を監視します。

【維持修繕】



高速道路の安全・快適な走行環境の確保や良好な沿道環境の保全のため、路面やトンネル等の清掃、草刈や樹木の剪定、交通事故や災害時の復旧作業、雪による障害を最小限にするための除雪や凍結防止作業等を行っています。

(株)ネクスコ・
エンジニアリング
北海道

(株)ネクスコ・
エンジニアリング
東北

(株)ネクスコ・
東日本
エンジニアリング

(株)ネクスコ・
エンジニアリング
新潟

(株)ネクスコ・
東日本
トラスティ

(株)ネクスコ・
メンテナンス
北海道

(株)ネクスコ・
メンテナンス
東北

(株)ネクスコ・
メンテナンス
関東

(株)ネクスコ・
メンテナンス
新潟

道路管理事業(その9)

現場力強化の柱

今まで培った維持管理の技術やノウハウを伝承させ、社員一人ひとりのスキル・能力を高める人材育成を強化し、自らさまざまなイノベーションに挑戦していきます！

■個人の業務スキル、能力を高める人材育成の強化

社員一人ひとりの業務スキル、能力等を高めるため、ジョブローテーションとリンクした多様な研修カリキュラムやベテラン社員の技術・技能を確実に伝承させる教育訓練など、通常業務の中に組み込んだ人材育成プログラムを強化します。

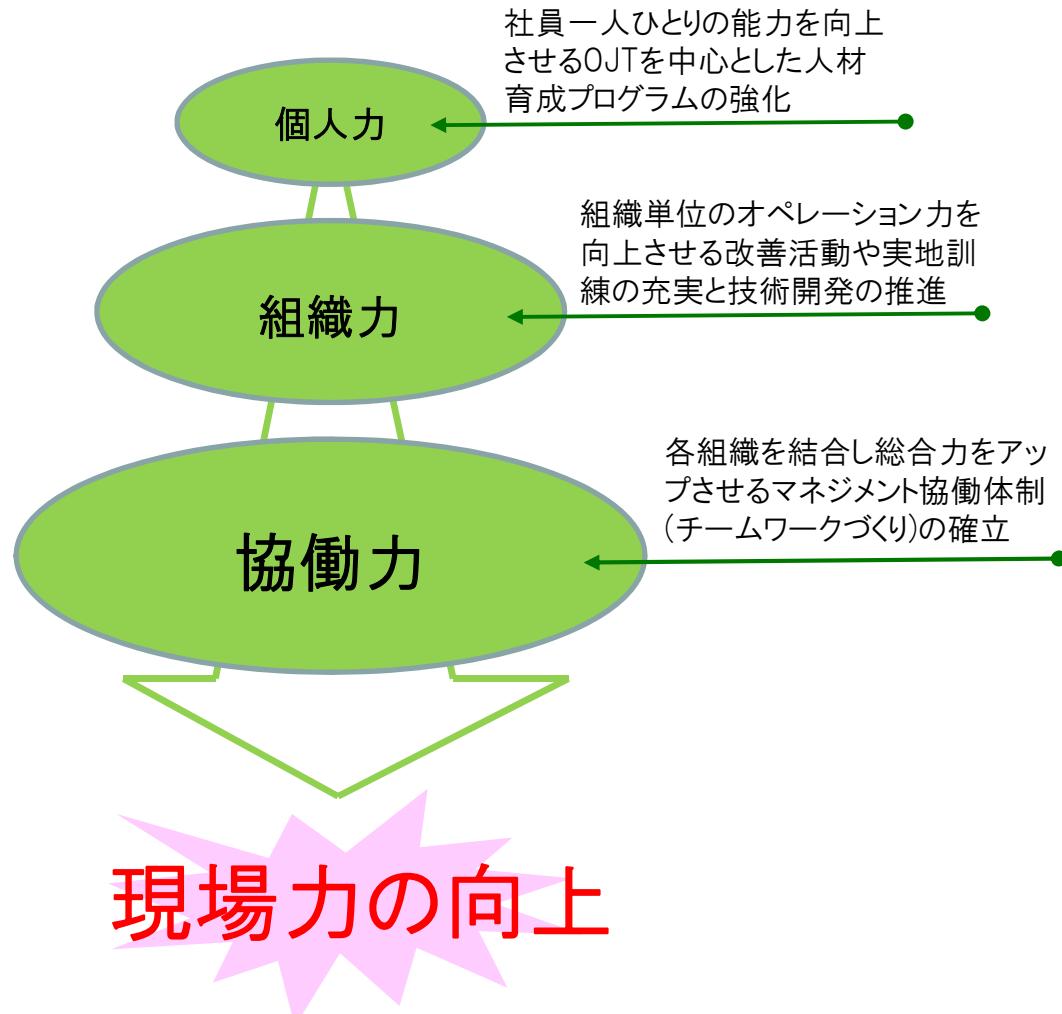
■組織単位のオペレーション力の向上

積極的な技術開発を推進とともに、継続的な業務フローの改良・改善を行い、いつ何時でも優れたオペレーションが発揮できるように実地訓練を積み重ねることで、組織単位のオペレーション力を向上させます。

■グループ協働体制の確立

NEXCOの管理事務所(長)を中心としたマネジメントによって、各組織のオペレーション力を連携・結合することで、グループ全体のチームワーク力を高めるグループ協働体制を確立します。

これらの取り組みによって、グループが一体となって日常的に考える強い現場(自ら問題を発見又は設定し、自ら解決する自律的で能動的な現場)を生み出し、お客様の「安全」、「安心」、「快適」、「便利」を良質なサービスとして提供できるプロ中のプロ集団を目指します。



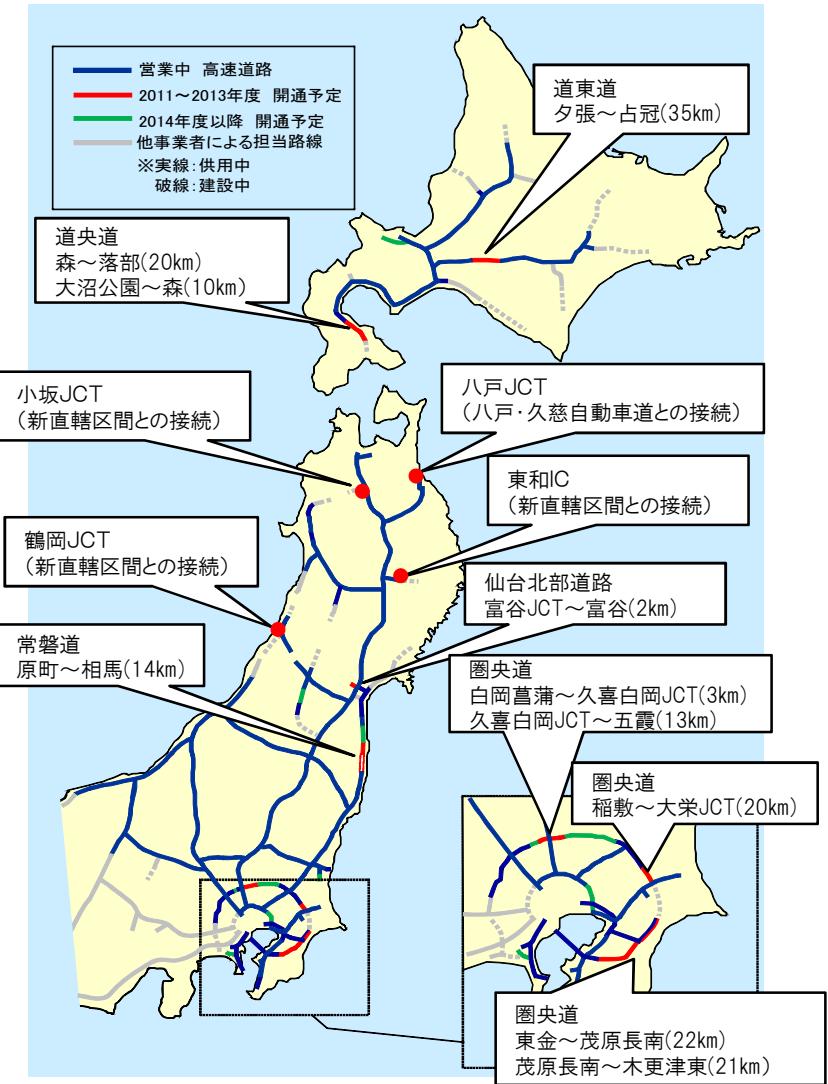
道路建設事業(その1)

NEXCO

高速道路ネットワークの形成を通じて地域社会の発展に貢献します！

■着実なネットワーク整備を推進

○首都圏環状道路の整備、地域社会発展に向けたミッシングリンク解消のための整備を進めます。[新規開通延長：160km]



道路建設事業(その2)

NEXCO

■より快適な走行に向けた機能強化

- 渋滞の緩和を目指し、拡幅事業の整備を進めます。
- 首都圏環状道路(東京外環、圏央道)の早期整備に貢献します。

■渋滞緩和事例(関越道 花園IC付近)



■圏央道の整備状況(圏央道は全て国との共同事業)



■高速道路を通じた地域社会との連携

- 地域と一体となった高速道路の活用に取り組みます。
- 沿線地域と連携したコミュニケーション活動に取り組みます。

休憩施設等にヘリポートを整備



コミュニケーション活動



現場見学会の実施



地域からの公募による橋梁名称の採用

道路建設事業(その3)

NEXCO

安全・安心・快適・便利を追求し、将来を見据えた高速走行空間の創造に取り組みます！

■多様なニーズに対応した道路空間づくり

○将来社会を見据え、誰でも安心して利用できる道路空間づくりに取り組みます。

- ・インターチェンジ等での誤進入車(逆走車)への警告装置を設置します。
- ・全てのお客さまにわかりやすい案内表示を実施します。
- ・携帯電話の不感知エリアでも通信可能な対策を実施します。
- ・DSRC技術を用い、ITSスポットを活用した次世代道路の実現に向けて取り組みます。

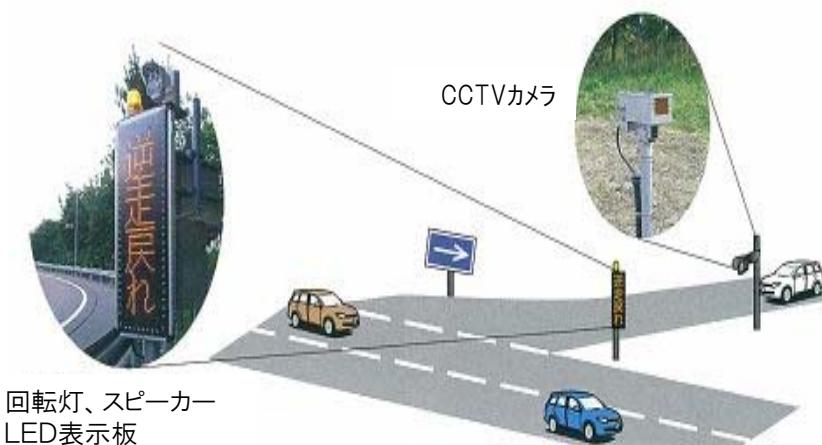
■わかりやすい案内表示



トンネル内における非常用避難坑への誘導表示



■逆走警告装置



回転灯、スピーカー
LED表示板

■DSRC技術を用いた情報提供や支援

前方障害物等の情報提供



位置情報の提供

デジタル地図連携の情報提供

インターネット接続や駐車場料金の決済 等

合流部における支援



前方状況の情報提供



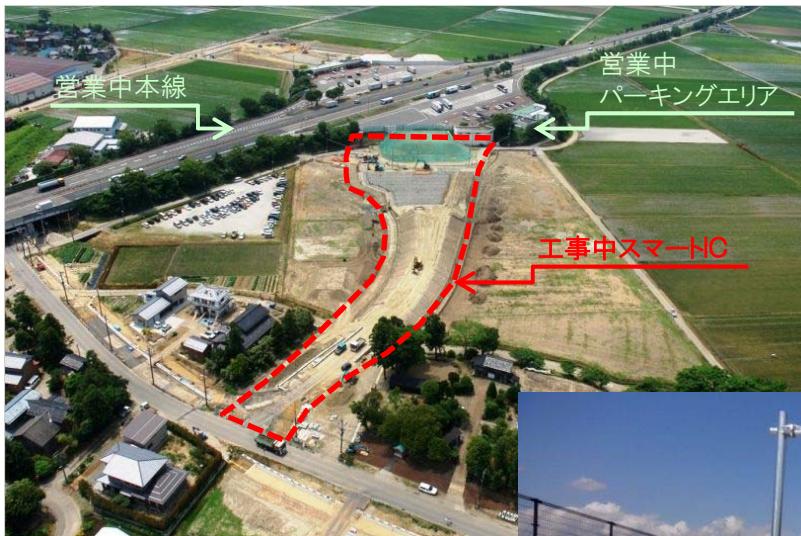
道路建設事業(その4)

NEXCO

○更なる利便性向上を目指し、追加インターチェンジやサービスエリア・パーキングエリアの整備を進めます。

- ・インターチェンジ(IC)の追加 :4箇所
- ・サービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)の追加・改築 :4箇所
- ・スマートインターチェンジ(SIC)の新設 :6箇所

■スマートインターチェンジの整備状況



スマートインターチェンジ完成事例



 **NEXCO**
東日本

道路建設事業(その5)



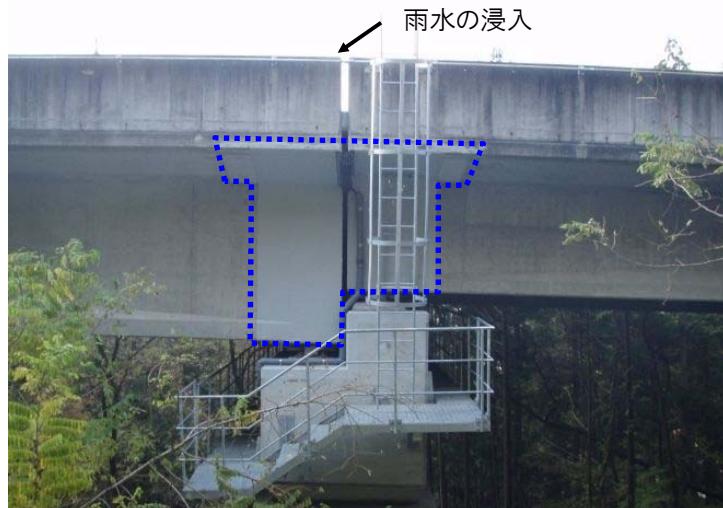
■ライフサイクルコストを考え、耐久性向上を目指した道路づくり

○高速道路の長寿命化に取り組みます。

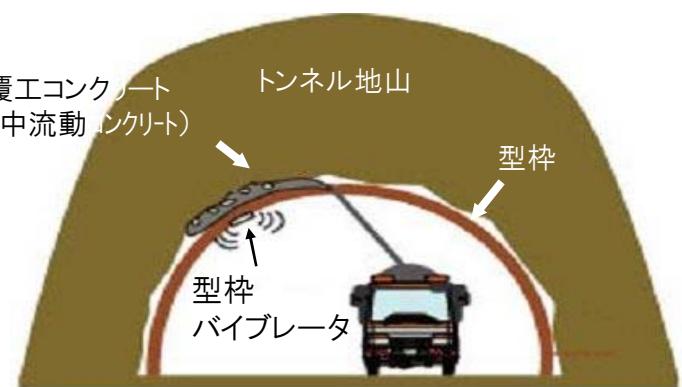
- ・雨水浸入により損傷しやすい橋桁端部に、コンクリートの保護対策を実施します。
- ・橋梁の床版に高性能防水材を施工し、長寿命化を図ります。
- ・トンネル覆工コンクリートに中流動コンクリートを採用し、品質向上を図ります。
- ・鋼橋塗装に常温金属溶射を採用し、耐久性向上を図ります。
- ・高機能舗装の下層の強度を高め、舗装の長寿命化を図ります。

■橋梁桁端部の損傷防止対策

被覆材によるコンクリート桁端部の保護事例



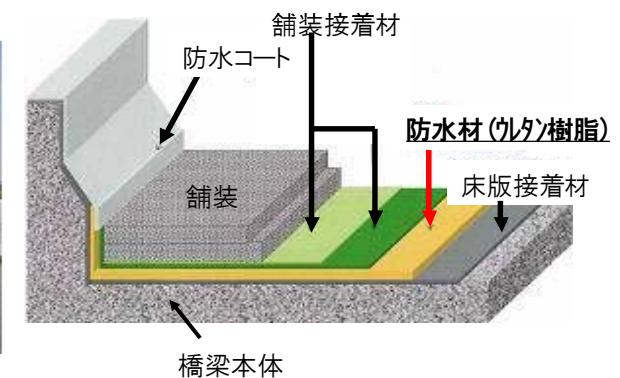
■トンネル覆工コンクリートに中流動コンクリートを採用



普通コンクリートよりも流動性が高いコンクリートを使うことにより、施工性が向上され、より良い品質が得られます。

■高性能防水による床版の長寿命化

橋梁床版への防水工の施工



道路建設事業(その6)



■自然災害に強く、信頼される道路づくり

○異常気象に強い道路を目指します。

- ・トンネル連たん箇所にスノーシェッド等を設置し、降雪時の走行環境を高めます。
- ・吹雪や濃霧による視界不良時の誘導対策を実施します。
- ・異常降雨に強い道路づくりに取り組みます。

○地震に強い道路を目指します。

- ・耐震性能に優れた道路づくりに取り組みます。
- ・防災機能を付加した休憩施設の整備に取り組みます。
- ・通信ケーブルの破断対策を行い、通信障害を防止します。

■トンネル連たん箇所におけるスノーシェッド等の採用



■視界不良対策の事例(自発光スノーポールによる誘導)



■災害復旧支援としての高速道路の役割



地震に強い道路づくりを行うことで、緊急交通路として大きな役割を果たします。東日本大震災時には、自衛隊などの緊急車両の通行や物資の輸送に利用され、大きな役割を果たしました。

道路建設事業(その7)



高速道路技術を活用し、更なるビジネス展開を目指します！

○国や地方自治体からコンサルティング業務を受注し、当社の技術力を活用します。

○当社の技術力を活用した新たなビジネス展開を図るためのマーケティングを推進します。



道路施設保守管理業務



橋梁点検業務

『平成23年度のコンサルティング業務受注実績』

業務名	
千葉市が管理する高速道路等を跨ぐ道路橋の点検業務	千葉市
橋梁長寿命化修繕計画橋梁点検業務委託	かすみがうら市
高速自動車国道関越自動車道上越線と交差する高速道路跨道橋の詳細設計業務	安中市
酒田管内日本海東北自動車道工事執行管理業務 (温海～鶴岡)	東北地方整備局 酒田河川国道事務所
福島管内東北中央自動車道工事執行管理業務 (福島～米沢)	東北地方整備局 福島河川国道事務所
山形管内東北中央自動車道技術支援業務 (東根～尾花沢)	東北地方整備局 山形河川国道事務所

『平成23年度の道路維持管理業務受注実績』

業務名	
主要地方道大衡落合線他7道の植栽管理業務	宮城県
道路施設保守管理業務委託	栃木県道路公社
大沢山トンネル JF分解点検・整備委託	新潟県 南魚沼地域振興局

サービスエリア事業(その1)



SAPAをよりエキサイティングにし、お客さまに感動をお届けできる積極的な設備投資を実施します！

■Pasarを積極的に展開

○首都圏で交通量の見込めるエリアに、複数の有名テナントを導入した『Pasar』を展開します。



『Pasar』とは
「パーキングエリア」の“PA”、「サービスエリア」の“SA”、「リラクゼーション(Relaxation)」の“R”を組合せたものであり、インドネシア語で「市場」を意味します。SA・PAの新しい形として、「旅の途中に立ち寄ってほっと一息つける場所」、「旅の途中で楽しく過ごせるにぎわいの場」をお客さまに提案していきたいとの思いを込めています。

2010年度末 4箇所
Pasar幕張(上り線)、Pasar羽生(下り線)
Pasar三芳(上り線)



Pasar Misaki (内観)

Pasar Hino (Hino PA Downline)



■ドラマチックエリアを積極的に展開

○地域の中核となるエリアに、テナントと連携し、「地域性」「旅の楽しみ」を凝縮した、旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」を展開します。

2010年度末
6箇所

中期経営計画期間内に開業
那須高原SA下り線他7箇所

中期経営計画
期間末
14箇所



「ドラマチックエリア那須高原(下り線)」(那須高原SA下り線)



「ドラマチックエリア市原(上り線)」(市原SA上り線)



サービスエリア事業(その2)

NEXCO

■テーマ型エリア等によりクルマの旅に「サプライズ」を演出

○ライセンスを有するテナントと連携し、独自の世界観を演出できる『テーマ型エリア』を展開します。



寄居 星の王子さまPA(寄居PA 上り線)

将来の飛躍につながる諸システムの構築や積極的なリニューアルを実施します！

■低成本・短工期の新世代型PAの展開

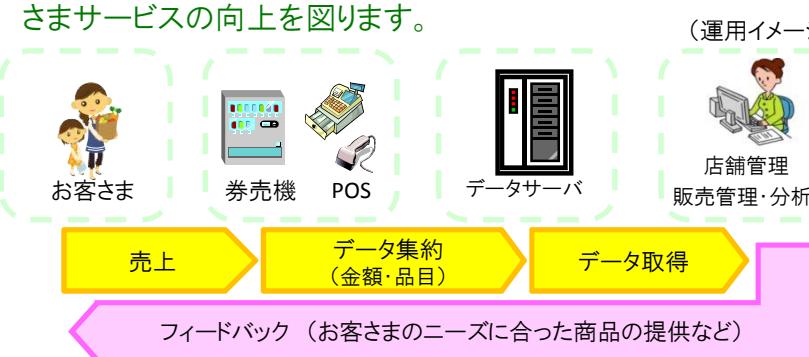
○老朽化の進むSAPA商業施設を、低成本・短工期で建て替え、効率的な運営を可能とする「新世代型エリア」を展開します。



新世代型エリア(イメージ)

■新店舗管理等システムの構築

○SAPA売店の売上管理や販促活動の更なる高度化が可能となる店舗管理等システムを新たに構築し、収益向上とともにお客様サービスの向上を図ります。



NEXCO
東日本

サービスエリア事業(その3)

NEXCO

地域や心との『つながり』を意識した細やかな施策を展開します！

■地域と連携し、地域の「ショーウィンドウ」化を推進

- 地元の有名商品や隠れた名産品などの積極的な導入・販売を推進します。



地域産品販売



E-NEXCO 野菜市場

- OSAPA名産品その他のエリア情報を発信するエリア情報等発信ショップ(アンテナショップ)を展開します。



地域情報の発信と、地域色豊かな商品の販売(イメージ)

NEXCO
東日本

■環境対策やCSR、災害対策への取組み

- 「HEARTLINK NIPPONプロジェクトの推進

「HEARTLINK NIPPON～つなごう、こころ。ひろげよう、出会い～」のスローガンの下、被災地商品の販売等、被災地復興に向けた様々な取組みを進めます。



2011.7.16-17 東北六魂祭



2011.7.23-24 磐梯山SA



HEARTLINK
NIPPON

- 大規模停電となるような災害発生時でも、リアルタイムな情報や最低限の食材・商品を提供できるよう、外部との通信手段確保対策として「衛星携帯電話」を、商業施設における電力確保対策として「自家発電機」の配備を進め、お客様の安全・安心を確保します。



自家発電設備



衛星電話(イメージ)

高速道路関連ビジネス(その1)

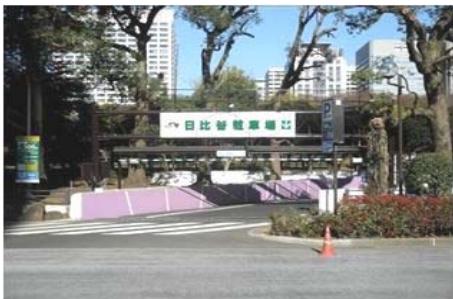


事業中の高速道路関連ビジネスを着実に拡大させていきます！

■資産活用事業やカード事業などを収益の柱となるよう展開

○資産活用事業

駐車場事業、高架下事業、トラックターミナル事業、オフィス賃貸事業、ホテル事業など、経営資源を活用した多様な事業を展開し、サービス水準の向上と拡大に努めています。



駐車場事業(日比谷駐車場)



高架下事業(京葉道路 幕張高架下)



トラックターミナル事業
(郡山トラックターミナル)



ホテル事業(佐野SA)



○カード事業

三菱UFJニコス(株)との提携カードに加え、イオンクレジットサービス(株)との新たな提携カードの共同発行を行い、お客さまにより魅力あるサービスを提供します。



三菱UFJニコス(株)



イオンクレジットサービス(株)

E-NEXCOポイントで高速道路が「走れる」



貯まったE-NEXCOポイントで
高速道路が走れる！
1ポイント＝1円

高速道路関連ビジネス(その2)



将来の『飛躍』につながる事業化の可能性を追求していきます！

■事業化の可能性を追求するための調査・検討を推進

○新たな事業領域を開拓するため、あらゆる可能性を追求しながら、お客さまサービスの向上や将来の収益向上につながる調査・検討を推進します。

積極的なグループ全体の効率化・ブランド力向上につながるサービスを実施します！

■ Webサービスなどを活用した、グループ全体の事業支援や企業ブランド向上への取組み

○SAPAでの販売促進やカードの利用促進を目的として、高速道路情報サイト『ドラぷら』へのアクセスを増やす施策を展開していきます。

○道路交通情報(ドライブトラフィック)サイトの更なる充実を図り、より満足度の高いサービスの提供をしていきます。

○観光情報などの情報提供を通じて、地域と連携していきます。



活躍の場の拡大と収益事業としての「海外事業」の展開を目指します！

■海外の高速道路事業へ参画

○NEXCO東日本、NEXCO中日本、NEXCO西日本、首都高速道路および阪神高速道路の5会社共同出資による日本高速道路インターナショナル株式会社(JEXWAY:2011年9月設立)と連携し、オールジャパンの協働体制で海外の高速道路事業への参画を目指します。

- ・インド事務所を中心とした情報収集活動を行いつつ、高速道路事業の案件形成に向けた調査を実施します。
- ・準備の整った案件への事業参画を推進します。



■技術支援業務の実施

○アジアを中心に、コンサルティングベースでの技術支援を実施していきます。例えばインドでは、ハイデラバード市の外環道路プロジェクトに対し、ITS支援業務を実施中です。

- ・受注した海外事業案件(ITS支援事業等)を確実に推進します。

《実施中コンサルティング業務の例》

ハイデラバード外環事業ITS整備支援プロジェクト (JICA発注)
アンドラプラデシュ州の外環道路プロジェクト(延長約158km)のITS整備支援業務
- ETC導入整備支援
- 道路管制設備導入支援
- 料金収受マニュアル作成 等



インド国ハイデラバード市で現地技術者への指導

国際協力・国際貢献に努めます！

■国際協力・国際貢献の継続的実施

○国際会議・セミナーへの継続参加

日本を代表する高速道路会社としてPIARC(世界道路会議)等への参加や、世界の高速道路会社との技術交流を通じ、世界の高速道路技術の向上と諸問題の改善に貢献していきます。

○専門家派遣と海外研修生の受入れ

今後も継続的に、発展途上国などの道路関係機関へ国際協力機構(JICA)長期専門家として社員を派遣し、有料道路制度の技術移転や道路建設、維持管理手法等の技術指導を行っていきます。

また、国土交通省やJICA等からの要請に応じ、海外研修生の受入れを行っていきます。



PIARCインド セミナーへの参加
交通安全に関するプレゼンテーション



インド国JICA専門家
国立道路技術研修所派遣



技術交流会議へ参加

韓国の道路管制センターでのディスカッション



スリランカ国JICA専門家
高速道路管理庁派遣



海外研修生の受入れ
スリランカ研修生へ路面補修の実演



V-7. 中期経営計画・コーポレート部門の計画

技術開発の推進

NEXCO

1. 最小のLCCで最良の道路空間を提供することを目指し、効率的な長寿命化・予防保全に向けた技術基盤を整備します！
2. 道路事業の効率化と安全性・快適性の向上を主眼におき、外部の技術力を活かしながら、技術開発・基準要領化を行います！

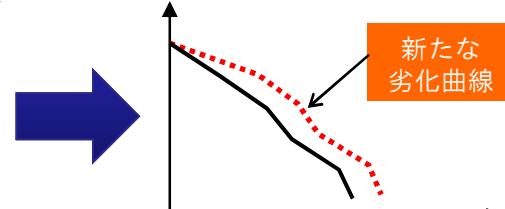
■アセットマネジメントシステムの構築と活用

○PMS・BMS※の構築とアセットマネジメントの活用

※ PMS: 補装マネジメントシステム BMS: 橋梁マネジメントシステム

- ・LCC最適化を目指し、点検データを蓄積し、環境条件や構造形式にあつた新たな劣化曲線を作成します。
- ・各種の補修・補強工法の性能を確認し、劣化曲線に反映します。

・点検データ			
橋梁	A橋		
部材	床版		
部位	支点付近		
損傷形態	箇所	範囲	箇所
H12. 7	1	1. 6m ²	6
H16. 7	2	1. 8m ²	7
H18. 8	2	2. 8m ²	7
H19. 8	3	3. 5m ²	10
			3. 2m ²



■「緊急性」のある技術開発への取組み

○桁端損傷の予防保全・補修工法の開発

- ・伸縮装置からの漏水を防ぐため止水性能を規定、狭小部補修工法を開発します。



桁端狭小部における止水工法の開発

■「点検・検査の高度化」、「雪氷作業の高度化」、「安全性・快適性の革新」につながる技術開発への取組み

○舗装、橋梁床版及び諸施設の点検・非破壊検査技術の開発

- ・非破壊で車線規制が不要な健全度調査(スクリーニング)技術を開発します
- ・施設設備における赤外線サーモ技術等による点検技術の高度化を図ります。

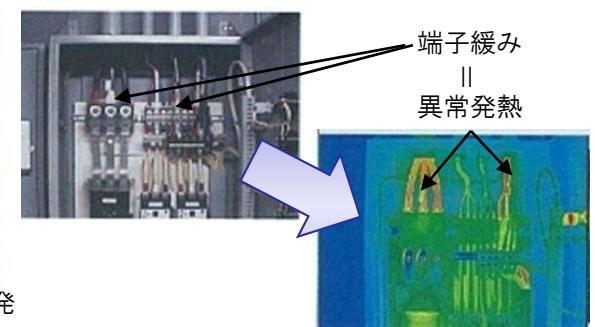
○冬期路面管理手法の高度化

○暫定二車線道路の安全性向上

○ITS技術の活用



舗装・橋梁の非破壊検査技術の開発



施設設備の点検技術の高度化

■外部技術力の導入

○大学・研究機関・民間企業等との連携による共同研究を推進します。

環境への取組み(その1)



地球環境の保全や循環型社会の形成に貢献するとともに、沿道の生活環境や自然環境の保全の取組みを進めることにより、社会的使命と責任を果たします！

■環境保全を常に考えた道路管理、道路づくり

○地球温暖化防止や循環型社会形成への貢献

(道路管理)

日々の道路管理で用いる電気や燃料などから発生するCO2削減のため、低エネルギー仕様の機器への更新や効率的な機器・機材の運用を実施します。

- ・道路管理業務から発生するキロ当たりCO2排出量
2010年度:64.4トン-CO2/km ⇒ 2013年度:62.5トン-CO2/km

(サービスエリア・パーキングエリアの取組み)

環境にやさしく、すべてのお客さまが安心してご利用できるSA・PAを目指します。

- ・LED照明への切り替え、太陽光発電の設置を進めます。(5箇所)
- ・環境タイプ袋の導入、マイ箸の普及を促進します。
- ・資源再利用への取組みの検討・実施を進めます。

■CO2排出量の少ない レジ袋の導入



■盛土のり面樹林化



植樹直後



樹林形成された盛土のり面

(道路建設)

「環境にやさしい高速道路」の整備を進めます。

- ・インターチェンジや休憩施設には、太陽光発電による自然エネルギーの活用や、省エネルギー設備を積極的に取り入れます。
- ・盛土のり面の樹林化を進めます。
- ・建設リサイクルの推進や地域副産物の活用を進めます。

■ecoエリア(イメージ)



環境への取組み(その2)



■環境負荷の低減

- 沿道環境に及ぼす影響を低減します。
遮音壁の設置や環境施設帯の整備などで環境基準を遵守します。
- 自然環境に及ぼす影響を低減します。
自然環境と共に共生する高速道路を目指し、「自然にやさしい道づくり(エコロード)」の取組みを進めます。
 - ・動物侵入防止対策を徹底します。
 - ・猛禽類保全、両生類などの生態系保全に努めます。
 - ・地域性苗木の育成と植樹を進めます。
 - ・自然環境保全策の実施及びモニタリングを進めます。

■動物侵入防止対策の事例



立入防止柵の改良(かさ上げ)



鳥類の飛翔誘導ポールの設置

■遮音壁、環境施設帯の設置・整備事例



遮音壁



環境施設帯

■猛禽類保全、両生類などの生態系保全の事例



猛禽類の保護(オオタカ)



産卵池の整備(トウキョウサンショウウオ)

■自然環境保全策及びモニタリングの事例



動植物が生息・生育できる「ビオトープ」の整備



経過年数に応じたモニタリング調査を行い、新たな取組みにも反映します。

■地域性苗木の育成と植樹

自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合、周辺地域に自生する樹木の種子を採取し、「地域性苗木」として植樹します。



種子採取



育苗(2~3年)



植樹

環境への取組み(その3)



■技術課題、ニーズに即した技術開発を通じ、現場の環境への取組みを支援

○環境保全に関する技術開発に取り組みます。

- ・遮音壁裏面を活用した太陽光発電技術の実証実験と実用化を行います。
- ・バイオマスガス発電技術の実証実験と実用化を行います。
- ・現場の課題やニーズに沿った研究・開発を実施します。
- ・開発した環境技術の導入支援、指導を行います。

■共同研究開発中のバイオマスガス発電

高速道路の草刈や樹木剪定から発生する植物廃材を活用した発電システム。



■環境保全の状況を分析・評価し、「CSRレポート」により公表

○「環境」への取組みを分析・評価し、毎年度「CSRレポート」を作成し公表します。



■遮音壁裏面を活用した太陽光発電システムの共同研究開発

限られた道路空間で効率的な発電を行うことを目指し、遮音壁の裏面を活用。3つのタイプで共同研究開発中。



両面受光型



曲げ加工が可能なフレキシブル型



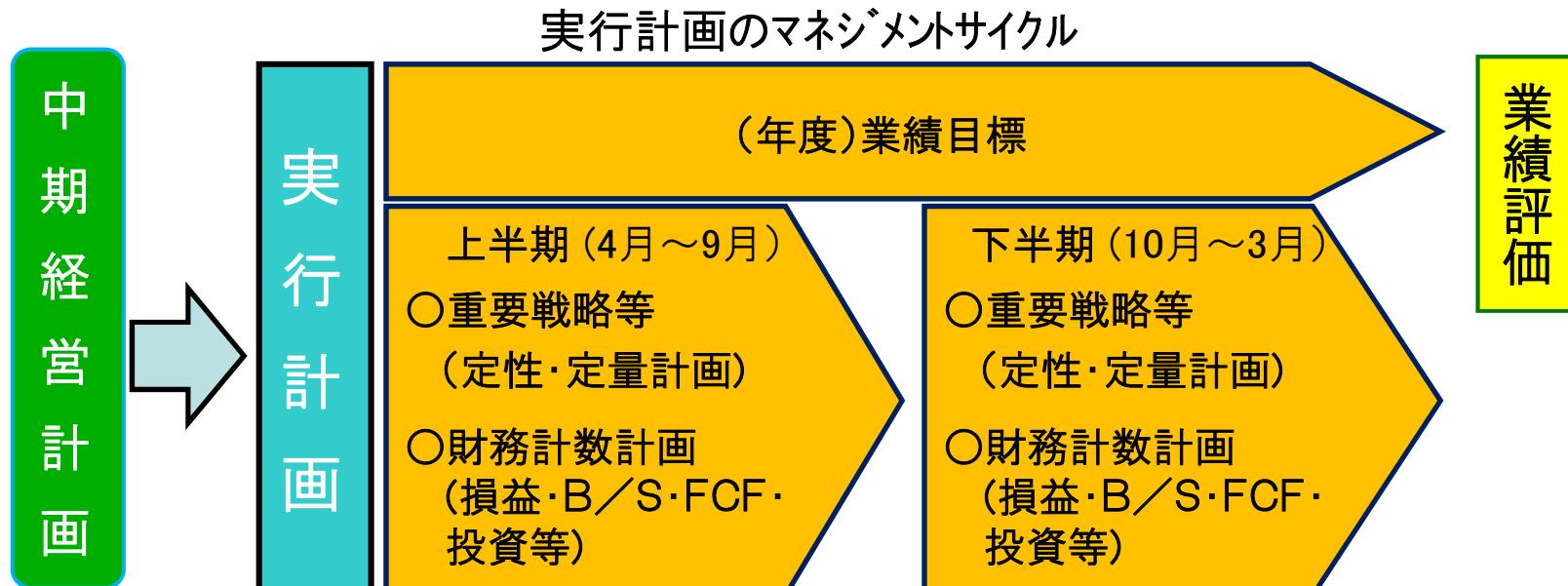
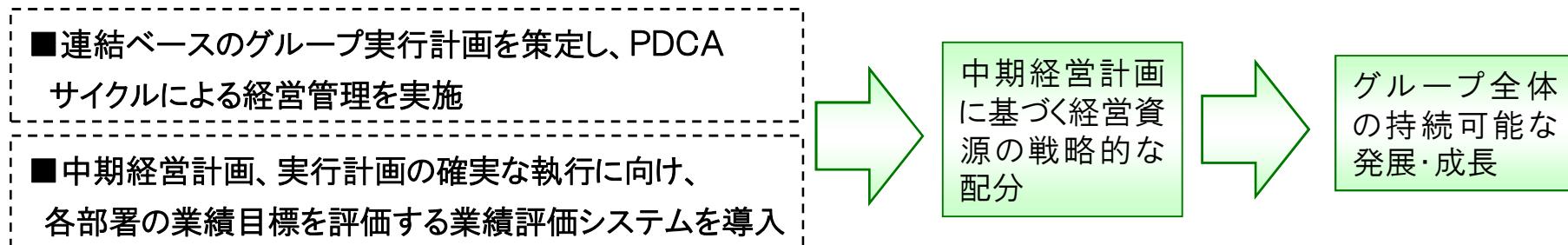
遮音壁外装板一体型



マネジメントサイクルの確立



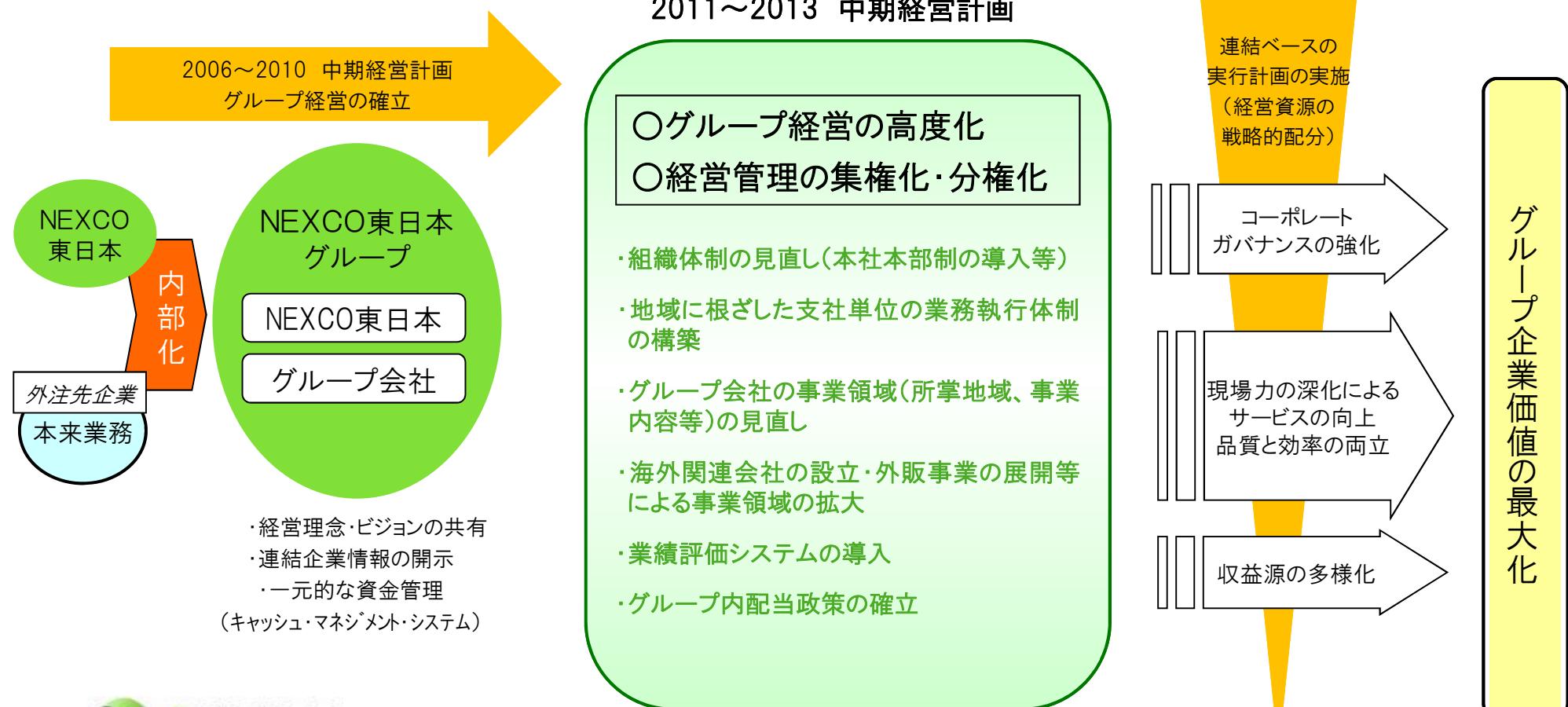
持続可能な発展・成長を目指し、連結ベースのグループ実行計画によるマネジメントサイクルを確立し、経営資源を戦略的に配分します！



グループ経営の高度化

NEXCO

グループ企業価値の最大化を目指し、グループ経営の高度化、経営管理の集権化・分権化を図ります！



NEXCO
東日本

ダイバーシティの推進と人材育成の強化



会社の業績向上に資するため、経営管理力や現場力の開発・強化につながるような人材を確保し、育成します！

■多様な人材・優秀な人材の採用及びダイバーシティの推進

- 経営環境・事業展開等を踏まえ、優秀かつ多様な人材を計画的に採用します。特に女性社員の活躍の場を広げるために、女性社員の積極的な採用に取り組みます。



グローバルな人材の育成
(海外事業OJT…スリランカでの現地技術者指導)

技術者の育成
(佐久(管)管内の舗装現場講習会)



■社員の能力開発の支援及び多様な人材、グローバルな人材を育成するための強化

○人材育成基本プログラム

- 「NEXCO東日本グループ人材育成基本プログラム」を策定し、グループの経営ビジョンを具体化してグループ全体の経営力・専門力を向上させる多様な人材の育成に取り組みます。

○次世代経営者育成研修

- 当社の将来を見据えた事業変革課題への取組み等を通じ、経営的視点を理解し、視野を拡大することによって、次世代の経営者になり得る人材を育成します。

○女性リーダー養成

- 女性の指導的地位への登用に向けたロールモデルの育成のための研修を策定・実施します。

○グローバルな人材の育成

- グローバルな視野をもった人材を育成する研修計画(海外実務、語学、海外事業OJT、通信教育等)を策定・実施します。

○技術者の育成

- 専門家の育成を図り、グループ全体の技術力の維持向上を図ります。



積極的な広報



あらゆるステークホルダーとの“つながり”を大切に、積極的な広報活動を行います！

■会社の顔が見える情報発信

- 経営トップによる会見やWEBを通じた経営情報の発信を積極的に行います。
- 各種メディアを活用して、お客さまに役立つ情報の発信に努めます。
- マルチデバイス・マルチネットワークへの対応などWEB活動の強化を図ります。



体験学習:アクアライン探検隊

■事業活動への“理解”が“共感”へとつながる広報活動の実施

- お客さまの「安全・安心・快適・便利」のための広報活動を効果的かつ効率的に行います。
- CSR活動の情報発信を積極的に行うなどCSR経営を意識した広報活動を行います。
- 現地見学会や体験学習などお客さまとの“ふれあい”を大切にした広報活動を行います。



地域交流イベント
ハイウェイコミュニケーションin東北2011

■地域との連携を大切にした広報活動の実施

- 地域有識者懇談会を開催し、地域の皆さまとの連携を図ります。
- 高速道路の利用促進につながる地域情報の発信に努めます。
- 地域交流イベントに参画するなど地域との結びつきを大切にします。



お客さまセンター

■お客さまセンターに寄せられる「お客さまの声」に真摯に対応

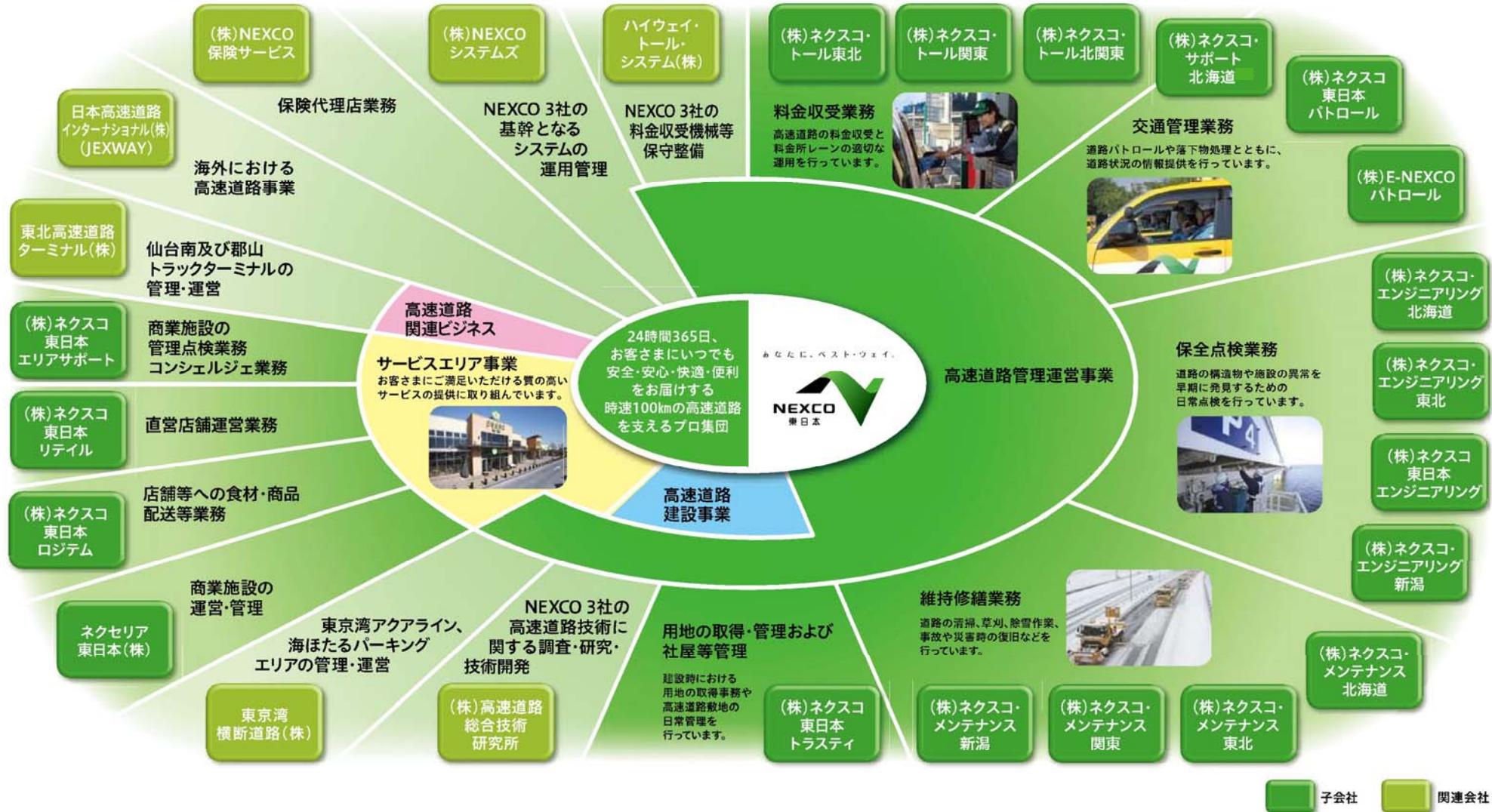
- お客さまの声を大切にし、また真摯に対応することでお客さまへのサービスの向上に努めます。



【参考1】NEXCO東日本グループ会社一覧



グループ会社 26社(子会社19社、関連会社7社)



【参考2】東日本大震災への対応(その1)

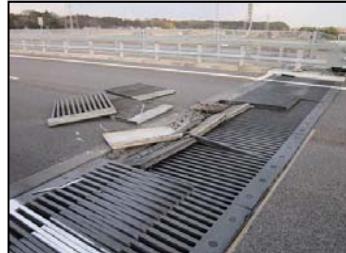


【対応の概要】

- ・平成23年3月11日14時46分頃発生 M9.0 最大震度7
- ・東北道、常磐道など、発災約20時間後には『緊急交通路』を確保
- ・13日後の24日には、一部区間を除きほぼ全線の通行止めを解除



①高速道の被災概要



写真左上 路面のひび割れ
(東北道 福島飯坂IC～国見IC間)



写真右上 伸縮装置の破損
(東水戸道路 水戸大洗IC
～ひたちなかIC間)

写真左下 余震による切土崩壊
(常磐道 いわき勿来IC
～いわき湯本IC間)

③緊急交通路の確保



写真左上 緊急復旧の状況
発災直後では、段差やひび割れを補修し、通行できる路面確保が最重要



写真右上 緊急通行通行車両の走行
消防隊の緊急支援隊

写真左下 未開通区間の通行支援
北関東道の未開通区間での自衛隊
進出状況

②高速道と津波被害



写真左 津波により浸水する仙台平野
(写真中央が仙台東部道路)

写真右上 津波による堆積物
(仙台東部道路 仙台若林JCT)

④高速道の復旧状況



【参考2】東日本大震災への対応(その2)

NEXCO

津波から避難した地域住民への対応



◆仙台東部道路(名取IC付近)の本線上等に、約230名の地域の皆さまが避難。巡回車車内へ救護。負傷者は病院へ搬送。最終的には避難者を管理事務所及び避難所へピストン輸送。

休憩施設における緊急通行車両への支援



写真左上 休憩施設に終結する消防隊
(東北道 Pasar羽生)



写真右上 自衛隊によるPAの基地利用
(常磐道 四倉PA)

写真左下 原子力発電所事故復旧車両
専用の給油基地としてSA内のGS利用
(常磐道 中郷SA)

車両制限令を超える特殊車両への走行支援



写真左上 福島第一原発に向かう
海外製80tコンクリートポンプ車

写真右上 瓦礫除去に向かう74式戦車

写真左下 汚染水処理用120m³タンク
を運ぶマルチトレーラー

被災地域の復興支援



◆被災地支援として、支援物資の提供、炊き出しを実施。復興支援として、がれき撤去や清掃作業などの支援活動を実施中。

写真左上 岩手県への支援物資の引き渡し

写真右上 避難所への出張炊き出しの支援
(福島県二本松市内の避難所)

写真左下 津波による浸水地域の路面清掃
(福島県相双地区)

